

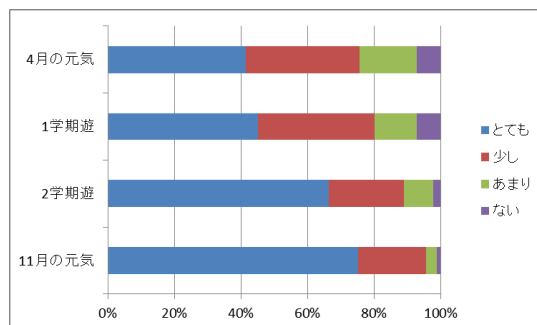
第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-114

学校名・団体名	熊本市立長嶺小学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/nagaminees/
コース	学校支援
活動・研究テーマ	地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成28年4月の地震により、子供たちは不安な心になっていた。運動遊びを活発にすることで、地震による不安な心を解消するだけでなく、弱った体力を回復する。運動遊びに必要な用具を増やし、児童が楽しみながら活動できるようにする。併せて、本校の体力テスト結果から、これまで弱かった走力、投力などを向上させていくこともねらいにする。</p>	

1. 心の状態についてのアンケート調査から (対象1年~6年の全児童960名)

4月の地震後は「とても元気。少し元気」が76%で、それ以外の子供は「あまり元気がなかった。元気がなかった。」と答えていた。1学期の運動遊びについては「とても遊んでいた。少し遊んでいた。」が80%であったが、11月では「とても遊ぶようになった。少し遊ぶようになった。」が89%になっている。また、5月には1年から6年まで50名の子供がカウンセリングの対象になった。その子供たちの中で「あまり元気がなかった」と答えた13名も11月には「元気になった」と答え、「元気がなかった」と答えた7名も11月には「元気になった。少し元気になった。」と答えている。



このような結果から、子供たちの元気度は高まったと言える。以下、取り組み内容を記す。

2. 運動用具の配置 (平成28年9月~10月)

本校は投力が全体的に弱く、投力の向上は課題であった。また、走力の向上も課題になっていた。そこで、投力向上のためスカッドボーイとロープウェイスローを用意した。走力向上のためイレクターパイプハードルを自作し、体育で活用できるようにした。さらに、巧緻性を高めるように逆上がり補助板を設置し、逆上がり練習の場を増やした。一輪車、竹馬も数を増やし多くの子供が活用できるようにした。運動能力が高い男子はサッカーなどのボール運動を好む傾向があり、運動が苦手な子供でも親しめるようにした。

3. 全校集会での校長講話

次のような講話をし、運動遊びを奨励した。

7月…「運動やいろんな運動遊びを何か続けましょう。夢中になって運動遊びをすると、地震で不安になっている気持ちもなくなり元気が出ます。運動が苦手な人も何か始めるようにしましょう。」

9月…「地震の後、学校が始まりみんなは運動場でよく遊ぶようになりました。これからは朝の始業前や休み時間には外に出ているような遊びをしていきましょう。」

10月…「まずスカッドボーイのやり方を、次にロープウェイスローのやりかたを説明します。」と述べ、体育委員会の子供にも実演させた。「長嶺小学校の子供は投げる力が少し弱いので、このように投げる運動遊びをたくさんして投げる力を高めていきましょう。」

4. 活動の実際 (平成28年9月~12月)

(1)スカッドボーイ、ロープウェイスローの活用

スカッドボーイは20個あり、対面式に2人に1個で、向かい合って投げている。しかし、受け損なって顔や体に当てる子供がいた。そこで、毛布で的を2箇所作成し、的をめがけて投げるようにした。投力に応じて投げる距離を加減し、自分に合った場所からの的へ向け投げた。1年生や2年生でもスカッドボーイのくぼみに指をかけ投げる要領をつかむと遠くまで投げるできるようになった。「ヒューと音がして飛んでいくので気持ちがいいです。」とどの子供も答えた。



ロープウェイスローは長さ22mのロープに重さ200gの投げ物の筒を通して投げるようにした。筒は芯をバトンにし、回りに広告用紙を貼り付けた。2人組または3人組になり、一人が片方を持ち、斜め上方に投げ上げる。ロープは2階席の手すり上段に結び付け、到達点にあるテニスボールめがけて子供たちは思い切り投げ上げた。筒の芯はプラスチックのバトンなので滑りやすく、筒が戻ってきたところには持ち手に投げ物が直接当たらないように木製の円盤をはめた。子供たちの第一声は「おもしろい。早く交代して。」である。子供たちは交代して何回も挑戦していた。



12月1日(木)から22日(金)まで体育委員会主催で「投げる力強化月間」を設定し、昼休みに体育館を利用してスカッドボーイとロープウェイスローの投げ方教室が行われた。

(2)一輪車、竹馬の活用

一輪車と竹馬は始業前や昼休みを活用し、自主的に取り組めるようにした。始業前は体育委員会が体育倉庫の鍵をあけ、自由に取らせるようにした。9月に6台新規に加え、今までの一輪車も整備し乗りやすくしたことで、以前は特定の女子のみ使用していたが、上級生男子も取り組むようになった。練習場所は登り棒である。子供たちは目標物を決め果敢に挑戦していた。



不登校気味であった4年女児Tは新しい一輪車に興味を持ち、一輪車の練習を始めた。友だちと競い合ううちに上手に乗れるようになり、一輪車に乗ることを楽しみに登校しづりを少しずつ解消していった。

竹馬は古いものが15セットあったが、新しく15セット加えた。体育倉庫を整理し、竹馬を取り出しやすいようにした。初めは中学年女子数名から乗り始めた。午前7時45分に体育委員会が体育倉庫の鍵を開けると、待ち構えていたように竹馬を取り出して楽しんだ。次第に男子も興味を持ち挑戦するようになった。竹馬の高さを10cm、30cm、60cmに設定した。10cmの低い高さをクリアしたら次は30cm、30cmをクリアしたら60cmと高い竹馬に挑戦するようになった。



4年女児Hは読書が好きで、あまり外遊びをしなかった。竹馬に乗れるようになると「先生、2歩乗れました。」次の日には「23歩乗れるようになりました。」と喜びを伝えてくれた。4年女児Tは一輪車から竹馬にも興味を示し、高い竹馬にも乗れるようになり遊びを楽しむようになった。12月には、運動嫌いだった3年女児Aが「先生、私竹馬に2歩乗れるようになりました。」と喜びを伝えてくれた。

(3)逆上がり補助板の活用

逆上がり補助板を設置すると、子供たちは休み時間の度に練習するようになった。初め、補助板を固定せずにいたが、子供から「固定したほうが練習しやすい」と要望が出たため、固定すると子供たちは熱心に取り組むようになった。鉄棒運動を行うのは女子が多かったが、次第に男子も練習を始めるようになった。低学年から始まり中学年と練習する子供の数が増えた。



(4)イレクターパイプハードルの活用

これまで既製の木製ハードルを使用していたが、鉄製の支柱は直角でなく鋭角になっており、倒れにくい構造であった。そこで、イレクターパイプ(中は鉄芯)で高さ60cmのハードルを24台、50cmのハードルを24台作成した。高学年用と中学年用で高さを変えた。丈夫な上に倒れやすくなっているため子供たちが安心して学習に取り組めるようになった。本校は体力テストで走力も課題があり、ハードル走を繰り返すことで走力の向上に役立つ用具となっている。



(5)その他の運動遊び(助成金以外の活動)

縄跳び練習板を5台、屋根付き中庭の「なかよし広場」に設置している。縄跳びの奨励を事あるごとにしているのので、夏場でも子供たちは練習に励んでいた。板が柔らかくしなるものほど人気があり行列ができた。縄跳びは女子に人気があり、低学年の子供たちでも2重跳びや3重跳びができるようになってきている。なわとび月間(11月7日~30日)には体育委員会が「なわとび名人チャレンジ」「なわとびフェスタ」を実施した。



ボール運動は高学年男子の多くが取り組む運動遊びである。始業前、昼休みなど気の合う数名で夢中になり遊んでいる。バザー益金でソフトサッカーボールを購入し、各学級に2個ずつ配布したことで、サッカー型の遊びだけでなく、バレーボール型の遊びやドッジボールなどボール遊びに親しむ子供の数は増えた。サッカー型の遊びは動きが速く、ボール運動が苦手な子供や女子は参加しにくい面も見られる。



5. 考察

2学期になってからの始業前や昼休みの子供たちの遊びについて、2年前や昨年度と比べても遊ぶ子供の割合が増えている。運動場中心はサッカー型の遊びやドッジボール、ドッジビーの遊びが占めている。しかし、運動場周辺のボールが来ない場所では一輪車や竹馬を楽しむ子供が増えている。体育倉庫を使いやすいように整理し、一輪車や竹馬を取り出しやすくなったことも一因である。ボール遊びに参加しにくい子供たちのためにも有効であった。また、鉄棒や縄跳びをする子供も確実に増えている。

4月の地震後「あまり元気がなかった。元気がなかった。」と答えた子供の感想は次の通りである。

「スカッドボーイをなげるときとんでいくところがたのしい。」(1年男児)「4月に大きなじしんがあつて学校に行くのが不安でした。でも5月の後半ぐらいに全員遊びができて、昼休みドッジボールをやって地しんの不安がなくなりました。」(2年女児)「いちりんしゃはとても楽しかったし、竹うまも楽しかったです。なわとびはジャンプ台をつかってやるといっぱいできて楽しいです。」(3年男児)「2学期はいまだに不安がありますが、竹馬をしたらだいぶ心からのよわみがなくなりました。よかったです。」(4年女児H)「一輪車で1mほどこげたのがうれしかった。楽しかった。」(5年女児)「地しんの後はあまり元気がなく、外で遊ぶのが少なかったけど、外で遊べる道具が増えて元気になりました。」(6年女児)

最初にも述べたが、「地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう」は達成できたのではないかと思われる。